

講義要項（シラバス）

年度	2022年度	時期	前期	学年	1
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	フレッシュマンセミナー	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	井澤真一 三浦信明 理学療法科全教員	実務経験	井澤：介護老人保健施設に理学療法士として5年勤務 三浦：医療機関（整形外科病院）に理学療法士として9年勤務。		
講義目標	一般目標				
	理学療法学を学修するにあたり、その概要を知るとともに、学習者としての姿勢を学び、同じ目標をもった仲間や教員など他者と協働して目標を達成する姿勢を培うことを取得する。				
	到達目標				
	①理学療法士に必要な基本的能力を達成目標として熟知し、参加することができる。 ②自主的に課題を発見し、自己学習によって解決に向けて実施することができる。 ③他者と協力して、課題の解決に向けて、対処方法を見出すことができる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	学科オリエンテーション	11	
2	理学療法士の理解	12	
3	基礎学力試験①	13	
4	基礎学力・表現力向上に向けて	14	
5	学内設備、医療機器の説明	15	
6	志望動機の整理①（自己紹介）	16	
7	志望動機の整理②（自己紹介）	17	
8	基礎学力試験②	18	
9		19	
10		20	

講義方法 講義、体験、面談、発表
成績評価方法 出席と提出物100%
参考書 プリント配布
予習復習のアドバイス 意欲的に参加しましょう。

講義要項（シラバス）

年度	2022年度	時期	通年	学年	1
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	キャリアデザイン	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	井澤真一 三浦信明 理学療法科教員	実務経験	井澤：介護老人保健施設に理学療法士として5年勤務 三浦：医療機関（整形外科病院）に理学療法士として9年勤務。		
講義目標	一般目標				
	「どんな仕事をしたいか」「どのような働き方や家庭生活を送りたいか」といった人生の理想を描き、その中で理学療法士という職業選択について、その実現に向けた計画を設計する。				
	到達目標				
	①自身の過去・現在を振り返り、自身のパーソナリティを理解する。伸ばす点、改善点の確認。 ②社会で求められている能力や態度を学び、自律的なキャリア形成に対する意識醸成をはかる。 ③今後の学生生活をどう送るか、理学療法士として在りたい姿を考え、キャリアビジョンを描く。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	キャリアとは何かを伝え、社会の変化と自分を考えるをテーマに講話。ジョブ・カードの作成補助シートで自身の価値観・強み・弱みを振り返る。	5	理学療法士のキャリア形成について(体験談②)
2	人生100年時代の社会人基礎力を理解し、自身の社会人基礎力の現状を確認する。その後ジョブ・カードを作成し、自己PR原型作成まで落とし込む。	6	理学療法士のキャリア形成について(体験談③)
3	過去・現在を振り返り、働く意義、資格取得後のキャリア形成をテーマに講話。今後の学生生活をどう送るか、理学療法士としての在りたい姿など、未来を描く内容。	7	理学療法士のキャリア形成について(体験談④)
4	理学療法士のキャリア形成について(体験談①)	8	理学療法士のキャリア形成について(体験談⑤)

講義方法 1～3回目までは外部講師、4回目以降は、理学療法科教員
成績評価方法 出席と提出物により評価する
参考書 ワーク資料等
予習復習のアドバイス

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	通年	学 年	1
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	医学英語	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	三浦信明 小宮山与一	実務経験	三浦：医療機関（整形外科病院）に理学療法士として9年勤務。 小宮山：医療機関（病院、外来クリニック）9年、障害支援施設8年、理学療法士として勤務。		
講義目標	一般目標				
	臨床現場で使用される医療に関する英語（英単語）、略語を理解して、カルテ等の資料を読み取ることができ、対象者の情報を記すことができる。				
	到達目標				
	1. 臨床で用いられる英単語や略語を理解し、用いることができる。 2. 医学英語で用いられる接頭語や解剖・運動学用語を理解できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	理学療法に関する医学用語	11	
2	理学療法に関する医学用語	12	
3	理学療法に関する医学用語	13	
4	人体各部の医学英語名称～骨・関節（1）	14	
5	人体各部の医学英語名称～骨・関節（2）	15	
6	人体各部の医学英語名称～筋系（1）	16	
7	人体各部の医学英語名称～筋系（2）	17	
8	人体各部の医学英語名称～筋系（3）	18	
9		19	
10		20	

講義方法

プリント及びスライドでの講義。適宜課題を提示します。

成績評価方法

期末試験100%

教科書・参考書

標準理学療法学作業療法学「解剖学」医学書院、第4版カラースケッチ解剖学 廣川書店、コ・メディカル版 ステ

予習復習のアドバイス

各自で辞書、教科書等を用い、授業で扱う用語について調べてください。

他科目での理解・復習が必要になりますので事前に確認しておくこと

講義要項（シラバス）

年度	2022年度	時期	通年	学年	1
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	体表解剖学実習	講義曜日	時間割参照	講義回数	23
		総時間数	45	単位数	1
講師名	三浦信明 小宮山与一	実務経験	三浦：医療機関（整形外科病院）に理学療法士として9年勤務。 小宮山：医療機関（病院、外来クリニック）9年、障害支援施設8年、理学療法士として勤務。		
講義目標	一般目標				
	骨格筋の用語及び構造を理解する。構造理解について、3次元的に理解するために体表から筋や骨を触察し描写する技術や断層解剖の理解を経験する。				
	到達目標				
	①骨格筋の名称、形態及び位置関係を理解する。 ②骨格筋と骨格を用紙に描写できる。 ③骨格筋と骨を対象学生の体表から触り分け、体表上に描写し、構造を立体的にイメージすることができる。 ④超音波画像診断装置を用い、断層診断することで骨格筋の重なりや位置関係をイメージすることができる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	頭頸部	16	実習：上肢帯前面
2	肩甲帯	17	実習：上肢帯後面
3	前胸部	18	復習及びまとめ
4	上腕	19	復習及びまとめ
5	前腕・手指	20	復習及びまとめ
6	下部体幹	21	断層解剖の理解
7	大腿前面	22	断層解剖の理解
8	大腿後面・殿部	23	演習まとめ(0.5h)
9	下腿前面・足部	24	
10	下腿後面・足部	25	
11	実習：下腿前面の触診	26	
12	実習：下腿後面の触診	27	
13	実習：大腿前面・膝の触診	28	
14	実習：大腿後面・内側面の触診	29	
15	実習：肩甲骨・頸部の触診	30	

講義方法

- ・ 教室での講義と実習室での実習の形式で行う。
- ・ 実習の服装として、実習着もしくは肌を露出できる半袖とするが、授業前に指示をする。
- ・ 実習の準備物として、各自バスタオルを持参する。

成績評価方法

「期末試験」100%

参考書

改訂版ボディ・ナビゲーション 医道の日本社/第4版カラスケッチ解剖学 廣川書店

予習復習のアドバイス

- ・ 解剖学、運動学と関連させて学習すること
- ・ 覚えるまで繰り返し学習することが重要です。

講義要項（シラバス）

年度	2022年度	時期	通年	学年	1
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	運動学Ⅰ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	和地辰紀	実務経験	和地：理学療法士として一般病院3年、介護老人保健施設4年、訪問看護ステーション4年勤務		
講義目標	一般目標				
	運動や障害を評価するために必要な捉え方・考え方の基礎となる運動学的知識を習得する。				
	到達目標				
1. 運動学的用語を理解し、正しく用いることができる。 2. 身体の基本的な構造や分類を理解し、正しく用いることができる。 3. 神経筋骨格系の構造や分類を理解し、正しく用いることができる。 4. 力学原理に基づく運動の記述と解釈ができる。					

回数	講義内容	回数	講義内容
1	運動学の定義・表現の基本	9	脊柱
2	神経筋骨格系の機能（骨・関節）	10	脊柱
3	神経筋骨格系の機能（筋）	11	呼吸
4	神経筋骨格系の機能（神経）	12	呼吸
5	神経筋骨格系の機能（腱・靭帯）	13	顔面
6	運動の中樞神経機構、姿勢	14	運動発達
7	運動学習、生体力学	15	運動発達
8	脊柱	16	

講義方法 教科書、スライド、配付資料を使用します。 また、人体模型・標本や実際の身体運動と照らし合わせながら講義を行います。
成績評価方法 担当教員毎に筆記試験を実施し、それらの結果を合算し総合評定を行います（各教員持ち点50点）
参考書 エッセンシャル・キネオロジー原書第3版（電子書籍付）南江堂
予習復習のアドバイス わからないことは、すぐに調べる、又は教員に聞くこと 常に疑問を持ち臨むこと

講義要項（シラバス）

年度	2022年度	時期	通年	学年	1
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	運動学Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	小宮山与一 三浦信明	実務経験	小宮山：医療機関（病院、外来クリニック）9年、障害支援施設8年、理学療法士として勤務。 三浦：医療機関（整形外科病院）に理学療法士として9年勤務。		
講義目標	一般目標				
	運動や障害を評価するために必要な捉え方・考え方の基礎となる運動学的知識を習得する。				
	到達目標				
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動学的用語を理解し、正しく用いることができる。 2. 身体の基本的な構造や分類を理解し、正しく用いることができる。 3. 神経筋骨格系の構造や分類を理解し、正しく用いることができる。 4. 力学原理に基づく運動の記述と解釈ができる。 				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	股関節	9	肩関節
2	股関節	10	肘関節、手部
3	膝関節	11	肘関節、手部
4	膝関節	12	肘関節、手部
5	足関節	13	歩行
6	足関節	14	歩行
7	肩関節	15	異常歩行
8	肩関節	16	
講義方法			
教科書、スライド、配付資料を使用します。また、人体模型・標本や実際の身体運動と照らし合わせながら講義を行います。使用する機器・機材は教科書、ホワイトボード、スライド、人体模型・標本を使用			
成績評価方法			
期末試験100%			
参考書			
エッセンシャル・キネオロジー原書第3版（電子書籍付）南江堂			
予習復習のアドバイス			
わからないことは、すぐに調べる、又は教員に聞くこと。常に疑問を持ち臨むこと			

講義要項（シラバス）

年度	2022年度	時期	通年	学年	1
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	理学療法概論	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	籠倉暁 井澤真一	実務経験	井澤：介護老人保健施設に理学療法士として5年勤務 籠倉：医療機関（一般病院、整形外科病院）に理学療法士として9年勤務		
講義目標	一般目標				
	理学療法及び理学療法士の概略を理解する。				
	到達目標				
	理学療法士を目指す学生として、将来の理学療法士像をイメージできるようになるとともに、この3年間で具体的にどのように過ごす必要があるのかをイメージできるようになる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	理学療法概要	11	病期・職域別の理学療法 在宅における役割
2	理学療法の背景 障害の概念・分類、保健制度	12	病期・職域別の理学療法 生活期（維持期）
3	理学療法の背景 歴史・法律、職業倫理、日本理学療法士協会	13	病期・職域別の理学療法
4	理学療法の構成	14	杖・車いすⅠ
5	理学療法に必要な知識と実習	15	杖・車いすⅡ
6	理学療法の主対象 運動器		
7	理学療法の主対象 中枢神経系		
8	理学療法の主対象 内部障害系、がん		
9	病期・職域別の理学療法 急性期		
10	病期・職域別の理学療法 回復期		

講義方法

講義、調べ学習、課題、グループワーク、発表

成績評価方法

小テスト・課題35点 授業態度15回×1点=15点 本試験50点

教科書

15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 理学療法概論 中山書店

予習復習のアドバイス

主に教科書を使用しますが、必要に応じて資料を配布する予定です。

全て期末試験範囲の資料となりますので、復習する際に十分に活用すること

講義要項（シラバス）

年度	2022年度	時期	後期	学年	1
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	基礎理学療法学	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	井澤真一 三浦信明	実務経験	井澤：介護老人保健施設に理学療法士として5年勤務 三浦：医療機関（整形外科病院）に理学療法士として9年勤務。		
講義目標	一般目標				
	理学療法評価・治療を行うために必要な基礎科学（解剖学/生理学/運動学）、機能障害の病態やそのメカニズムについて理解する。				
	到達目標				
	理学療法評価・治療に必要な基礎科学、機能障害の病態やそのメカニズムを理解し、説明できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	オリエンテーション、概要説明	9	プレゼンテーション準備①
2	事前準備①	10	プレゼンテーション準備②
3	事前準備②	11	プレゼンテーション準備③
4	事前準備③	12	発表
5	事前準備④	13	発表
6	事前準備⑤	14	発表
7	事前準備⑥	15	まとめ
8	事前準備⑦	16	

講義方法 講義、グループ学習、発表
成績評価方法 出席状況、授業・発表態度、発表内容
参考書 解剖学、生理学、運動学で使用している教科書等
予習復習のアドバイス 主体的に行動し、随時教員に報告・連絡・相談を行い、進めていくこと いろいろな書籍に触れ理解すること。

講義要項（シラバス）

年度	2022年度	時期	通年	学年	1
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	理学療法管理学Ⅰ	講義曜日	時間割参照	講義回数	7.5
		総時間数	15	単位数	1
講師名	佐藤美加	実務経験	佐藤：医療機関（病院）に5年3ヵ月、理学療法士として勤務。その後2年ほど週1回程度医療機関（病院）に勤務。		
講義目標	一般目標				
	理学療法学生としての自己管理、マネジメントの必要性について学ぶ。				
	到達目標				
	①理学療法学生とし、自己管理の必要性を理解し、理学療法士を目指す学修者としての自己管理ができる ②コンプライアンス（法令遵守）、個人情報保護法、理学療法倫理について理解する ③見学実習に向け、感染対策及び情報管理ができる				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	理学療法学生としての自己管理①(学修要項の説明)	9	
2	理学療法学生としての自己管理②(スケジュール管理)	10	
3	理学療法管理学総論	11	
4	理学療法士と政策、社会保障制度について	12	
5	法令遵守(コンプライアンス) について	13	
6	理学療法士の職業倫理	14	
7	見学実習における感染対策と個人情報保護	15	
8	まとめ	16	

講義方法 講義、演習
成績評価方法 課題（70％）、参加態度（30％）。課題には今未来手帳の記載状況が含まれます。
参考書（教科書） 今未来手帳
予習復習のアドバイス 今未来手帳を毎日持ち歩き、期末試験や課題の提出期限を意識した生活を送りましょう。また、毎日今未来手帳に日々の勉強量を記録しましょう。その記録状況を成績評価に組み入れます。

講義要項（シラバス）

年度	2022年度	時期	通年	学年	1
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	理学療法評価学Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	23
		総時間数	45	単位数	3
講師名	日下優	実務経験	日下：医療機関（病院）で8年、介護老人保健施設で2年理学療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	骨関節系の代表的な測定法である、関節可動域測定及び徒手筋力検査法を習得する。				
	到達目標				
	関節可動域測定及び徒手筋力検査法の意義及び目的を理解し、実施できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	評価学Ⅱ 総論・関節可動域測定概論	13	徒手筋力検査法（上肢）
2	関節可動域測定（上肢）	14	徒手筋力検査法（上肢）
3	関節可動域測定（上肢）	15	徒手筋力検査法（まとめ）
4	関節可動域測定（まとめ）	16	徒手筋力検査法（下肢）
5	関節可動域測定（下肢）	17	徒手筋力検査法（下肢）
6	関節可動域測定（下肢）	18	徒手筋力検査法（下肢）
7	関節可動域測定（頸部・体幹）	19	徒手筋力検査法（下肢）
8	関節可動域測定（まとめ）	20	徒手筋力検査法（下肢）
9	筋力測定法概論、徒手筋力検査法総論	21	徒手筋力検査法（下肢）
10	徒手筋力検査法（上肢）	22	徒手筋力検査法（頸部・体幹）
11	徒手筋力検査法（上肢）	23	徒手筋力検査法（まとめ）
12	徒手筋力検査法（上肢）	24	

講義方法

実技、座学、状況によってはオンラインにて実施する可能性あり

成績評価方法

実技試験50%、筆記試験50% 状況によっては実技試験が変更になる可能性あり

参考書

理学療法評価学（金原出版）、新・徒手筋力検査法 第10版（協同医書出版）

予習復習のアドバイス

- ・ 予習の際は、教科書の文章を読み、必要な知識と実技の方法を確認すること。
- ・ 空き時間に実習室を利用し、同級生や先輩に確認してもらい習慣をつけてください。実技の方法だけでなく、基本的な知識が言えるかも確認してもらうこと。
- ・ 声に出して実技練習をすること。例えば、関節可動域テストでは基本軸と移動軸、徒手筋力検査では筋の起始と停止を発声しながら練習を行うこと。
- ・ 運動学や解剖学、実技科目と関連して学習すると相互の理解が深まります。

講義要項（シラバス）

年度	2022年度	時期	後期	学年	1
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	理学療法評価学Ⅲ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	畠山健一	実務経験	介護老人保健施設4年、訪問看護ステーション・通所介護2年、特別養護老人ホーム7年、理学療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	理学療法評価の基礎となる形態測定・疼痛検査・バランス検査・脳神経検査の総合的理解を深めることで、2年次以降の疾患特性、評価手技、治療法などの各論的な学習に繋げる。				
	到達目標				
	基礎的な理学療法評価法について理解し、健常者に対して実施できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	形態測定(1)	11	動作分析(1)
2	形態測定(2)	12	動作分析(2)
3	形態測定(3)	13	動作分析(3)
4	痛みの評価(1)	14	動作分析(4)
5	痛みの評価(2)	15	高次脳機能検査
6	バランステスト(1)	16	
7	バランステスト(2)	17	
8	バランステスト(3)	18	
9	日常生活活動(動作)検査(1)	19	
10	日常生活活動(動作)検査(2)	20	

講義方法
講義、実技 ※毎回授業の最初に小テストを実施します。
成績評価方法
出席点(1点×15回=15点) + 小テスト(2点×15回=30点) + 学期末筆記試験(55点) = 100点 ※60点以上合格 1回配点：正解率60%以上=2点、正解率60%以下=1点
教科書
理学療法評価学 改訂第6版(金原出版)
予習復習のアドバイス
各回の授業前に事前に配布する授業資料を予習して下さい。 その内容から各回の小テストを出題します。

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	後期	学 年	1
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	運動療法Ⅰ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	三浦信明	実務経験	三浦：医療機関（整形外科病院）に理学療法士として9年勤務。		
講義目標	一般目標				
	運動療法技術に関する基礎的知識と技術を習得する。				
	到達目標				
	1.基本的な運動療法の目的を説明できる。 2.基本的な運動療法の原理原則を説明できる。 3.基本的な運動療法を実技を通して経験し、他者に実施できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	運動療法とは？（運動療法の概要）	9	基本的な運動療法 関節可動域運動・筋力増強運動 実技：上肢
2	運動の基礎的知識	10	基本的な運動療法 関節可動域運動・筋力増強運動 実技：上肢
3	運動中止基準・運動療法の進め方	11	基本的な運動療法 関節可動域運動・筋力増強運動 実技：下肢・体幹
4	基本的な運動療法 関節可動域について	12	基本的な運動療法 関節可動域運動・筋力増強運動 実技：下肢・体幹
5	基本的な運動療法 関節可動域について	13	基本的な運動療法 持久力について
6	基本的な運動療法 関節可動域運動	14	基本的な運動療法 全身持久力増強運動
7	基本的な運動療法 筋力について	15	基本的な運動療法 全身持久力増強運動 実技
8	基本的な運動療法 筋力増強運動	16	

講義方法

講義で運動療法の目的・原理原則・実施方法の基礎的知識を説明し、その後、実際に体を動かしながら実技能力を習得していく。

成績評価方法

小テスト30%、期末試験70%

参考書

教科書：スライド・プリント配布

参考書：理学療法ハンドブック第1巻理学療法の基礎と評価 協同位医療出版社、シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト(改訂第3版) 南江堂、運動療法学第2版 文光堂

予習復習のアドバイス

解剖学・運動学・生理学の内容を確認しながら運動療法とのつながりを理解することに努めましょう。実技の際には積極的にPT役、患者役を行うなどして、自分の体を可能な限り使い体験しましょう。実際の患者で実施できるように技術を習得しましょう。実技に関しては短時間で習得できるものではない為、それぞれの時間を利用し繰り返し練習を行いましょう。

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	通年	学 年	2
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	理学療法特論Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	小宮山与一 日下優	実務経験	小宮山：医療機関（病院、外来クリニック）9年、障害支援施設8年、理学療法士として勤務。 日下：医療機関（病院）で8年、介護老人保健施設で2年理学療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	臨床医学と理学療法の関係性を理解し、それぞれの知識を定着させる。				
	到達目標				
	各疾患と理学療法の関係性を理解し、まとめ、発表できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	オリエンテーション	9	各疾患と理学療法の調べ学習
2	各疾患と理学療法の調べ学習	10	各疾患と理学療法の調べ学習
3	各疾患と理学療法の調べ学習	11	各疾患と理学療法の調べ学習
4	各疾患と理学療法の調べ学習	12	発表
5	各疾患と理学療法の調べ学習	13	発表
6	各疾患と理学療法の調べ学習	14	発表
7	各疾患と理学療法の調べ学習	15	発表
8	各疾患と理学療法の調べ学習	16	

講義方法 グループワーク、発表など
成績評価方法 筆記試験
参考書 特になし
予習復習のアドバイス 主体的に行動し、随時教員に報告・連絡・相談を行い進めていくこと。

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	前期	学 年	2
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	理学療法評価学Ⅳ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	小宮山与一	実務経験	小宮山：医療機関（病院、外来クリニック） 9年、障害支援施設9年、理学療法士として勤務。		
講義目標	一般目標				
	疾病に関係なく理学療法士が実施する種々の機能低下を把握するための検査測定技法を修得し、その結果の解釈について学ぶ。				
	到達目標				
	理学療法の基本的評価技術を修得する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	姿勢分析 概要	9	整形外科疾患検査③
2	姿勢分析 演習	10	姿勢反射検査 概要
3	姿勢分析 演習	11	姿勢反射検査 演習
4	動作分析 概要	12	協調性検査 概要
5	動作分析 演習	13	協調性検査 演習
6	動作分析 演習	14	片麻痺機能検査 概要
7	整形外科疾患検査①	15	片麻痺機能検査 演習
8	整形外科疾患検査②	16	

講義方法
グループワーク、発表など
成績評価方法
授業態度、提出物、発表態度・内容、出席状況を考慮して評価する。状況に応じて小テストを行い成績に加味する。
参考書
特になし
予習復習のアドバイス
主体的に行動し、随時教員に報告・連絡・相談を行い進めていくこと。

講義要項（シラバス）

年度	2022年度	時期	通年	学年	2
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	理学療法評価学Ⅴ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	小宮山与一 日下優	実務経験	小宮山：医療機関（病院、外来クリニック）9年、障害支援施設8年、理学療法士として勤務。 日下：医療機関（病院）で8年、介護老人保健施設で2年理学療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	症例の背景に応じた検査測定の実施と実施、結果の判断・解釈について学修する。				
	到達目標				
	症例の背景に応じた検査測定を選択し、実践できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	基礎的な理学療法評価の実技練習	9	各種疾患における理学療法評価の選択と実技
2	基礎的な理学療法評価の実技練習	10	各種疾患における理学療法評価の選択と実技
3	基礎的な理学療法評価の実技練習	11	各種疾患における理学療法評価の選択と実技
4	基礎的な理学療法評価の実技練習	12	各種疾患における理学療法評価の選択と実技
5	基礎的な理学療法評価の実技練習	13	各種疾患における理学療法評価の選択と実技
6	各種疾患における理学療法評価の選択と実技	14	各種疾患における理学療法評価の選択と実技
7	各種疾患における理学療法評価の選択と実技	15	各種疾患における理学療法評価の選択と実技
8	各種疾患における理学療法評価の選択と実技	16	

講義方法 グループワーク、実技
成績評価方法 授業態度、提出物、出席状況を考慮して評価する。状況に応じて小テストを行い成績に加味する。
参考書 特になし
予習復習のアドバイス 主体的に行動し、随時教員に報告・連絡・相談を行い進めていくこと。

講義要項（シラバス）

年度	2022年度	時期	通年	学年	2
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	理学療法画像評価学	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	小宮山与一	実務経験	小宮山：医療機関（病院、外来クリニック）9年、障害支援施設8年、理学療法士として勤務。		
講義目標	一般目標				
	理学療法の実施に関係する画像評価について学修する。				
	到達目標				
	臨床で活用されている医用画像撮影装置の原理と診かたについて理解するとともに、理学療法への役立て方を習得する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	各種モダリティの原理とその診かた	11	
2	脳画像の理解	12	
3	脳画像のリハビリテーションへの応用	13	
4	超音波画像診断装置の理解	14	
5	超音波画像診断装置のリハビリテーションへの応用	15	
6	超音波画像診断装置トピックス	16	
7	画像評価に基づく疾患別ケーススタディ	17	
8	画像に関連する国家試験問題の理解	18	
9		19	
10		20	

講義方法 対面授業と遠隔通信アプリを使用したオンライン授業を併用して行う。
成績評価方法 「筆記試験」
参考書 PT・OTのための画像のみかた 金原出版株式会社 監修 山下敏彦
予習復習のアドバイス 画像の理解には、解剖学の基礎知識が必要になります。関連分野の復習を事前に行い参加してください。

講義要項（シラバス）

年度	2022年度	時期	後期	学年	2
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	理学療法評価・臨床推論	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	日下 優	実務経験	日下：医療機関（病院）で8年、介護老人保健施設で2年理学療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	EBPTにつながる基本として、理学療法士が行う検査測定結果から目標設定、理学療法プログラムの立案につながる臨床推論の基本的な流れが展開できる素地を養う。				
	到達目標				
	理学療法評価・臨床推論の流れを理解し、説明できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	整形疾患における異常動作・現象の臨床推論	9	脳血管疾患における異常動作・現象の臨床推論
2	整形疾患における異常動作・現象の臨床推論	10	神経疾患における異常動作・現象の臨床推論
3	整形疾患における異常動作・現象の臨床推論	11	神経疾患における異常動作・現象の臨床推論
4	整形疾患における異常動作・現象の臨床推論	12	神経疾患における異常動作・現象の臨床推論
5	整形疾患における異常動作・現象の臨床推論	13	神経疾患における異常動作・現象の臨床推論
6	整形疾患における異常動作・現象の臨床推論	14	神経疾患における異常動作・現象の臨床推論
7	脳血管疾患における異常動作・現象の臨床推論	15	神経疾患における異常動作・現象の臨床推論
8	脳血管疾患における異常動作・現象の臨床推論	16	

講義方法 グループワーク、実技
成績評価方法 授業態度、提出物、出席状況、教員とのやり取りを考慮して評価する。状況に応じて小テストを行い成績に加味する。
参考書 特になし
予習復習のアドバイス 主体的に行動し、随時教員に報告・連絡・相談を行い進めいていくこと。

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	通年	学 年	2
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	運動療法Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	小宮山与一、理学療法科全教員	実務経験	小宮山：医療機関（病院、外来クリニック）9年、障害支援施設8年、理学療法士として勤務。		
講義目標	一般目標				
	各疾患の理学療法ガイドラインに基づいて、運動療法についての知識を深める。				
	到達目標				
各種障害に対する運動療法の理論を理解し、実践できる。					

回数	講義内容	回数	講義内容
1	感覚障害に対する運動療法	9	スポーツにおける徒手理学療法①
2	感覚障害に対する運動療法	10	スポーツにおける徒手理学療法②
3	バランス障害に対する運動療法	11	高次脳機能障害に対する運動療法
4	バランス障害に対する運動療法	12	高次脳機能障害に対する運動療法
5	協調性運動障害に対する運動療法	13	アスリートに対するパフォーマンスエンハンスメント①
6	協調性運動障害に対する運動療法	14	アスリートに対するパフォーマンスエンハンスメント②
7	姿勢障害に対する運動療法	15	物理的刺激と運動療法
8	姿勢障害に対する運動療法	16	

講義方法
スライド、配布資料を使った講義・実技、グループワーク
成績評価方法
出席状況、授業態度、課題、試験で総合して判定する
参考書
運動療法学第2版 障害別アプローチの理論と実際
予習復習のアドバイス
授業でわからないときは、教員に質問してください。
実技を多く含むため、自主的に実技練習をして下さい。

講義要項（シラバス）

年度	2022年度	時期	通年	学年	2
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	物理療法	講義曜日	時間割参照	講義回数	23
		総時間数	45	単位数	3
講師名	佐藤美加	実務経験	医療機関（病院）に5年3ヵ月、理学療法士として勤務。その後2年ほど週1回程度医療機関（病院）に勤務。		
講義目標	一般目標				
	各種物理療法の特徴及び生理学的効果等を理解する。				
	到達目標				
	①物理療法の種類を説明できる ②物理療法の適応、禁忌、実施方法について説明できる ③物理療法を実際に使用する				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	物理療法のための生理学	13	水治療法
2	物理療法基礎	14	電気刺激療法(1)
3	温熱療法(1)	15	電気刺激療法(2)
4	温熱療法(2)	16	電気刺激療法(3)
5	温熱療法(3)	17	電気刺激療法(4)
6	光線療法	18	牽引療法
7	寒冷療法	19	マッサージ療法
8	超音波療法	20	リスク管理
9	演習(1)	21	演習(1)
10	演習(2)	22	演習(2)
11	演習(3)	23	演習(3)
12	演習(4)	24	

講義方法 講義、実技
成績評価方法 筆記試験70%、課題30%
参考書（教科書） 15レクチャーシリーズ 物理療法学・実習
予習復習のアドバイス それぞれの単元のはじめのページに予習・復習のポイントが示されています。 そちらを参考にしてください。

講義要項（シラバス）

年度	2022年度	時期	通年	学年	2
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	日常生活活動技術論	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	和地辰紀	実務経験	和地：医療機関（一般病院）3年、介護老人保健施設4年、理学療法士として勤務。		
講義目標	一般目標				
	日常生活活動（以下、ADL）の概念形成の関係を理解し、ADL評価・補装具・基本動作・身辺動作・住環境整備等の知識を習得し、各疾患におけるADL練習、指導の考え方を理解する。				
	到達目標				
	1.理学療法の過程とADLの関連について理解する。 2.ADL評価を行う目的と評価方法を理解する。 3.一般的な動作の介助や指導、基本的な補装具、住環境整備について理解する。 4各疾患のADL練習、指導の原則や対象者の変化に対応したADL練習、指導を理解する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	日常生活活動の概念	9	疾患・障害におけるADL② 脊髄損傷
2	日常生活活動評価の概要	10	疾患・障害におけるADL③ 関節リウマチ
3	代表的な評価指標	11	疾患・障害におけるADL④ 変形性関節症
4	基本動作	12	疾患・障害におけるADL⑤ 呼吸器疾患
5	移乗動作と移動動作・歩行	13	疾患・障害におけるADL⑥ 循環器疾患
6	身辺動作	14	疾患・障害におけるADL⑦ 神経筋疾患
7	手段的日常生活活動	15	疾患・障害におけるADL⑧ 認知症
8	疾患・障害におけるADL① 片麻痺	16	

講義方法
対面講義形式（状況に応じてオンライン講義）、グループワーク、実技演習、
成績評価方法
学期末考査によって成績を評価する
参考書
Crosslink 理学療法学テキスト 日常生活活動学
予習復習のアドバイス
講義内容をしっかりと記録し復習すること
疾患別ADLを理解するために疾患の理解を深めてから講義に臨むこと

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	通年	学 年	2
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	骨関節障害理学療法Ⅰ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	小宮山与一 三浦信明	実務経験	小宮山：医療機関（病院、外来クリニック）9年、障害支援施設8年、理学療法士として勤務。 三浦：医療機関（整形外科病院）に理学療法士として9年勤務。		
講義目標	一般目標				
	骨関節疾患の病態および運動器障害の概要を知り、それらの理学療法評価について学ぶとともに、病態から考える理学療法評価におけるリスク管理について理解を深める。				
	到達目標				
	運動器障害に対する機能障害の系統的評価手法を理解する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	運動器障害理学治療学総論	9	変形性関節症に対する理学療法評価③
2	骨折・脱臼に対する理学療法評価①	10	変形性関節症に対する理学療法①
3	骨折・脱臼に対する理学療法評価②	11	変形性関節症に対する理学療法②
4	骨折・脱臼に対する理学療法評価③	12	脊椎疾患に対する理学療法評価①
5	骨折・脱臼に対する理学療法①	13	脊椎疾患に対する理学療法評価②
6	骨折・脱臼に対する理学療法②	14	RAに対する理学療法評価①
7	変形性関節症に対する理学療法評価①	15	RAに対する理学療法評価②
8	変形性関節症に対する理学療法評価②	16	

講義方法
実技を伴う対面授業と遠隔通信アプリを使用したオンライン授業を併用して行う。
成績評価方法
「筆記試験」100%
教科書・参考書
Crosslink 理学療法学テキスト運動器障害理学療法学 メジカルビュー社 編集 加藤浩 理学療法テキスト 運動器障害理学療法Ⅰ 第二版 中山書店 石川朗
予習復習のアドバイス
各種疾患に関連する解剖学、運動学の復習を行った上で、授業に参加すること。

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	通年	学 年	2
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	骨関節障害理学療法Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	小宮山与一 三浦信明	実務経験	小宮山：医療機関（病院、外来クリニック）9年、障害支援施設8年、理学療法士として勤務。 三浦：医療機関（整形外科病院）に理学療法士として9年勤務。		
講義目標	一般目標				
	運動器障害に対する理学療法を総合的・系統的に学習する。運動器障害に対する評価に基づいて、運動療法を主体とした治療の理論を学習する。				
	到達目標				
	運動器障害における評価に基づいた治療計画立案の考え方、基本的な運動療法手技、リスク管理について説明できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	RAに対する理学療法	9	肩関節周囲疾患に対する理学療法②
2	脊椎疾患に対する理学療法①	10	スポーツ障害・外傷に対する理学療法評価①
3	脊椎疾患に対する理学療法②	11	スポーツ障害・外傷に対する理学療法評価②
4	脊椎疾患に対する理学療法③	12	スポーツ障害・外傷に対する理学療法評価③
5	肩関節周囲疾患に対する理学療法評価①	13	スポーツ障害・外傷に対する理学療法①
6	肩関節周囲疾患に対する理学療法評価②	14	スポーツ障害・外傷に対する理学療法②
7	肩関節周囲疾患に対する理学療法評価③	15	スポーツ障害・外傷に対する理学療法③
8	肩関節周囲疾患に対する理学療法①	16	

講義方法

実技を伴う対面授業と遠隔通信アプリを使用したオンライン授業を併用して行う。

成績評価方法

「筆記試験」100%

教科書・参考書

Crosslink 理学療法学テキスト運動器障害理学療法学 メジカルビュー社 編集 加藤浩
理学療法テキスト 運動器障害理学療法学Ⅱ 第二版 中山書店 石川朗

予習復習のアドバイス

各種疾患に関連する解剖学、運動学の復習を行った上で、授業に参加すること。

講義要項（シラバス）

年度	2022年度	時期	前期	学年	2
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	神経筋障害理学療法Ⅰ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	日下優	実務経験	日下：医療機関（病院）で8年、介護老人保健施設で2年理学療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	神経筋疾患（重症筋無力症、多発性筋炎、多発性神経炎、ニューロパチー、脊髄損傷）の病態と理学療法との関わりを理解し、病態に応じた診断・評価・治療の流れについて学ぶ。				
	到達目標				
	①神経機能の基礎について復習し、各種症状を呈するメカニズムが理解できる ②対象となる疾患の症状、医学的管理、及び予後を理解し、時期や重症度に応じたリハビリテーション計画を考えることができる ③対象となる疾患の関連知識として介護技術、ADL、福祉用具、社会資源等が理解できる				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	多発神経炎・ニューロパチー（ギランバレー）	9	脊髄損傷（外部講師）
2	多発神経炎・ニューロパチー（ギランバレー）	10	脊髄損傷（外部講師）
3	多発神経炎・ニューロパチー（ギランバレー）	11	脊髄損傷（外部講師）
4	重症筋無力症・多発性筋炎	12	脊髄損傷（外部講師）
5	重症筋無力症・多発性筋炎	13	脊髄損傷（外部講師）
6	重症筋無力症・多発性筋炎	14	脊髄損傷（外部講師）
7	脊髄損傷（外部講師）	15	脊髄損傷（外部講師）
8	脊髄損傷（外部講師）	16	

講義方法 講義及びグループ学習、実技
成績評価方法 取り組み（グループワーク、課題、提出物）、筆記テストを総合的に評価する。
参考書 シンプル理学療法学シリーズ神経筋障害理学療法学テキスト（南江堂）
予習復習のアドバイス 各疾患ごとに症状やリハビリテーションを暗記するのではなく、病態生理や発生機序を理解した上で、症状を関連させて考えると良い。 神経機能の生理学と各疾患の症状を結びつけることで疾患理解を深め、臨床に役立つ知識となる。

講義要項（シラバス）

年度	2022年度	時期	後期	学年	2
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	神経筋障害理学療法Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	井澤真一	実務経験	井澤：介護老人保健施設に理学療法士として5年勤務。		
講義目標	一般目標				
	神経筋疾患（パーキンソン病、脊髄小脳変性症・多系統萎縮症、多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症、筋ジストロフィー）の病態と理学療法との関わりを理解し、病態に応じた診断・評価・治療の流れについて学ぶ。				
	到達目標				
	①対象となる疾患の症状、医学的管理、及び予後を理解し、時期や重症度に応じたりハビリテーション計画を考えることができる ②対象となる疾患の関連知識として介護技術、ADL、福祉用具、社会資源等が理解できる				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	パーキンソン病（井澤）	9	筋萎縮性側索硬化症（片山）
2	パーキンソン病（井澤）	10	筋萎縮性側索硬化症（片山）
3	パーキンソン病（井澤）	11	筋ジストロフィー（片山）
4	脊髄小脳変性症・多系統萎縮症（井澤）	12	筋ジストロフィー（片山）
5	脊髄小脳変性症・多系統萎縮症（井澤）	13	筋ジストロフィー（片山）
6	脊髄小脳変性症・多系統萎縮症（井澤）	14	筋ジストロフィー（片山）
7	多発性硬化症（片山）	15	筋ジストロフィー（片山）
8	多発性硬化症（片山）	16	

講義方法 講義及びグループ学習、実技
成績評価方法 取り組み（グループワーク、課題、提出物）、筆記テストを総合的に評価する。 （配点：井澤40点・片山60点）
参考書 シンプル理学療法学シリーズ神経筋障害理学療法学テキスト（南江堂）
予習復習のアドバイス 各疾患ごとに症状やリハビリテーションを暗記するのではなく、病態生理や発生機序を理解した上で、症状を関連させて考えると良 神経機能の生理学と各疾患の症状を結びつけることで疾患理解を深め、臨床に役立つ知識となる。

講義要項（シラバス）

年度	2022年度	時期	通年	学年	2
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	内部障害理学療法Ⅲ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	井澤真一	実務経験	井澤：介護老人保健施設に理学療法士として5年勤務。		
講義目標	一般目標				
	代謝障害（糖尿病・腎不全・末梢循環障害）と高齢期の理学療法における病態と理学療法の概要を知り、それらの理学療法評価及び治療について理解する				
	到達目標				
1. 代謝障害を理解する上で必要な組織・器官の構造と機能を説明できる 2. 代謝障害の各種疾患の病態のメカニズムについて、生理・病理的側面から説明できる 3. 糖尿病、腎不全、末梢循環障害、加齢によって引き起こされる代表的症状や生理応答について、病態と関連させて説明できる 4. 糖尿病、腎不全、末梢循環障害、高齢期の理学療法評価に必要な検査と治療を説明・実施できる					

回数	講義内容	回数	講義内容
1	代謝障害総論	9	糖尿病Ⅲ
2	臍臓・腎臓の構造と機能	10	腎臓病Ⅰ
3	栄養とエネルギー代謝	11	腎臓病Ⅱ
4	末梢循環障害Ⅰ	12	腎臓病Ⅲ
5	末梢循環障害Ⅱ	13	高齢期理学療法Ⅰ（井澤）
6	末梢循環障害Ⅲ	14	高齢期理学療法Ⅱ（井澤）
7	糖尿病Ⅰ	15	高齢期理学療法Ⅲ（井澤）
8	糖尿病Ⅱ	16	

講義方法 座学（授業ごとに教科書をもとに作成した資料を配布します）*プロジェクターを使用
成績評価方法 1.筆記試験80% 2.課題・出席・授業態度20% （配点：石島80点・井澤20点）
参考書 内部障害理学療法学 メジカルビュー社
予習復習のアドバイス 授業毎に確認テストを実施する。学習理解度を確認し、自己学習に役立てること。

講義要項（シラバス）

年度	2022年度	時期	通年	学年	2
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	地域理学療法学Ⅰ	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	島山健一	実務経験	介護老人保健施設4年、訪問看護ステーション・通所介護2年、特別養護老人ホーム7年、理学療法士として勤務		
講義目標	一般目標				
	病気や障害を抱えた人々が生活している場所（地域）で起きている生活問題の解決を図ることや治療技術だけではなくその人らしい生活づくりまでを含めた幅広い領域を理解する。				
	到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域と理学療法との関係を理解する。 ・ 対象、関連制度、在宅理学療法について理解する。 					

回数	講義内容	回数	講義内容
1	地域リハビリテーション総論	5	在宅理学療法②
2	地域理学療法の対象および関連制度	6	在宅理学療法③
3	介護保険制度下での地域理学療法	7	症例検討・演習課題①
4	在宅理学療法①	8	症例検討・演習課題②

講義方法 講義、グループワーク
成績評価方法 学期末に筆記試験（100点）を実施します。 ※60点以上合格
参考書 ビジュアルレクチャー 地域理学療法学 第2版（医歯薬出版）
予習復習のアドバイス グループ内の検討課題には積極的に参加しましょう。

講義要項（シラバス）

年度	2022年度	時期	通年	学年	3
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	関連職種連携論	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	和地辰紀	実務経験	和地：理学療法士として一般病院3年、介護老人保健施設4年、訪問看護ステーション4年勤務		
講義目標	一般目標				
	「チーム医療、チームケア」を実践するための知識や方法を学び、将来、臨床の場で活かせるようにする。				
	到達目標				
	①問題解決能力を身につける ②対人スキル、コミュニケーションスキルについて学ぶ ③広い視野を持ち、自身の意見を他者に伝えることができる				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	専門職とは	5	関連職種連携とは
2	医療福祉専門職に求められるもの	6	問題解決型学習法について
3	情報の共有と評価	7	関連職種連携の模擬実践①
4	現代家族の特徴	8	関連職種連携の模擬実践②

講義方法
状況に応じて講義はオンライン、対面で実施します。検討課題について個々人もしくはグループで解決していく。
成績評価方法
学期末考査、受講態度を総合的に勘案し評価します。
参考書
Crosslink理学療法テキスト 地域理学療法学
予習復習のアドバイス
オンラインでの講義では通信環境等を配慮した上で実施しますので不明な点は伝えてください。 グループ内での検討課題に積極的に参加してください。

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	通年	学 年	3
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	研究法	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	小宮山与一 三浦信明 全教員	実務経験	小宮山：医療機関（病院、外来クリニック）9年、障害支援施設8年、理学療法士として勤務。 三浦：医療機関（整形外科病院）に理学療法士として9年勤務。		
講義目標	一般目標				
	研究に必要な用語や知識を理解し、研究思考を身につける				
	到達目標				
	<ul style="list-style-type: none"> ・研究の必要性・重要性について説明できる ・研究に用いる用語を説明できる ・研究過程を説明できる ・理学療法関連の論文の内容を理解できる ・目的をもって複数の文献をまとめることができる 				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	EBPTとガイドライン	9	プレゼンテーション1
2	文献レビュー(概要説明)	10	プレゼンテーション2
3	文献レビュー(レジュメ作成)1	11	プレゼンテーション3
4	文献レビュー(レジュメ作成)2	12	プレゼンテーション4
5	文献レビュー(レジュメ作成)3	13	研究の進め方1
6	文献レビュー(レジュメ作成)4	14	研究の進め方2
7	文献レビュー(レジュメ作成)5	15	研究の進め方3
8	文献レビュー(レジュメ作成)6	16	

講義方法 対面授業とテレビ会議システムを用いた遠隔授業の併用。発表準備やプレゼンテーションを行います。
成績評価方法 「レジュメ作成」、「プレゼンテーション」100%
参考書 日本理学療法士協会理学療法ガイドライン
予習復習のアドバイス 発表レジュメ作成において、教員との報告、連絡、相談が必要になります。随時、主体的かつ積極的に取り組むように心がけてください。

講義要項（シラバス）

年度	2022年度	時期	通年	学年	3
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	理学療法特論Ⅲ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	籠倉暁 和地辰紀	実務経験	和地：医療機関（一般病院）3年、介護老人保健施設4年、理学療法士として勤務 籠倉：医療機関（一般病院、整形外科病院）に理学療法士として9年勤務		
講義目標	一般目標				
	基礎科目、臨床医学、理学療法の関係性を理解する。				
	到達目標				
	学生が、基礎科目、臨床医学、理学療法の知識を定着させ、関連付けて説明することができる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	理学療法 臨床運動学、評価	9	理学療法と解剖学の関係性
2	理学療法 ADL、物理療法、義肢装具学	10	理学療法と運動学の関係性
3	理学療法 運動療法、理学療法概論、地域理学療法	11	理学療法と生理学の関係性
4	理学療法専門分野のまとめ 中間テスト	12	理学療法と解剖・運動・生理のまとめ 中間テスト
5	理学療法と臨床医学の関係性 病理学、リハ概論、内科学	13	症例の理解と理学療法
6	理学療法と臨床医学の関連性 心理学、精神医学、人間発達学	14	症例の理解と理学療法
7	理学療法と臨床医学の関連性 整形外科、神経内科学	15	症例の理解と理学療法
8	理学療法と臨床医学のまとめ 中間テスト	16	

講義方法

講義、調べ学習、問題演習

成績評価方法

小テスト10点×3回=30点 本テスト60点

教科書

特になし

予習復習のアドバイス

国試問題過去10年分はしっかり解けるようにしてください。

講義要項（シラバス）

年度	2022年度	時期	通年	学年	3
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	理学療法評価学VI	講義曜日	変則	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	籠倉 暁 和地辰紀	実務経験	和地：医療機関（一般病院）3年、介護老人保健施設4年、理学療法士として勤務 籠倉：医療機関（一般病院、整形外科病院）に理学療法士として9年勤務		
講義目標	一般目標				
	理学療法評価の情報を整理し、考察する。				
	到達目標				
	学生が、理学療法評価の情報を整理し、他者に説明することができる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	PBL 問題基盤型学習 初期情報	9	発表・ディスカッション
2	PBL 問題基盤型学習 評価項目列挙	10	PBL 問題基盤型学習 目標設定
3	PBL 問題基盤型学習 評価項目列挙	11	PBL 問題基盤型学習 目標設定
4	PBL 問題基盤型学習 統合と解釈	12	PBL 治療プログラム立案
5	PBL 問題基盤型学習 統合と解釈	13	PBL 問題基盤型学習 治療プログラム立案
6	PBL 問題基盤型学習 問題点抽出	14	発表・ディスカッション
7	PBL 問題基盤型学習 問題点抽出	15	発表・ディスカッション
8	発表・ディスカッション	16	

講義方法
グループワーク、発表、ディスカッション
成績評価方法
期末試験
教科書
特になし
予習復習のアドバイス
疑問点は教科書で調べ、自身でしっかり理解しましょう。

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	前期	学 年	3
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	運動療法Ⅲ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	籠倉暁 和地辰紀	実務経験	和地：医療機関（一般病院）3年、介護老人保健施設4年、理学療法士として勤務 籠倉：医療機関（一般病院、整形外科病院）に理学療法士として9年勤務		
講義目標	一般目標				
	各疾患の運動療法とリスク管理を理解する。				
	到達目標				
	各疾患の運動療法において、リスク管理を行いながら、効果的に実践できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	人工膝関節置換術後の痛みに対するアプローチ	11	脳卒中片麻痺に対するアプローチ
2	人工膝関節置換術後の動作障害に対するアプローチ	12	長期臥床後の症例に対するアプローチ
3	その他の膝関節周囲の問題に対するアプローチ	13	高齢対象者に対するアプローチ
4	人工股関節置換術後の痛みに対するアプローチ	14	模擬患者に対する評価と治療
5	人工股関節術後の動作障害に対するアプローチ	15	模擬患者に対する評価と治療
6	その他の股関節周囲の問題に対するアプローチ	16	
7	高齢者の姿勢異常に対するアプローチ	17	
8	高齢者の動作障害に対するアプローチ	18	
9	脳卒中片麻痺に対するアプローチ	19	
10	脳卒中片麻痺に対するアプローチ	20	

講義方法 講義、実技
成績評価方法 レポート、学期末試験
教科書 障害別 運動療法学の基礎と臨床実践 金原出版株式会社
予習復習のアドバイス 実技練習は自主的に反復練習し、実践できるようにしましょう。

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	通年	学 年	3
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	骨関節障害理学療法Ⅲ	講義曜日	変則	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	籠倉暁 和地辰紀	実務経験	和地：医療機関（一般病院）3年、介護老人保健施設4年、理学療法士として勤務 籠倉：医療機関（一般病院、整形外科病院）に理学療法士として9年勤務		
講義目標	一般目標				
	骨関節障害の理学療法ガイドラインと臨床実習の経験に基づいて、骨関節障害の理学療法について理解を深める。				
	到達目標				
	学生が、骨関節障害に対してガイドラインと臨床実習の経験に基づいて、理学療法を計画し、説明できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	担当症例と国試問題・ガイドラインの結び付け	5	担当症例と国試問題・ガイドラインの結び付け
2	担当症例と国試問題・ガイドラインの結び付け	6	担当症例と国試問題・ガイドラインの結び付け
3	担当症例と国試問題・ガイドラインの結び付け	7	担当症例と国試問題・ガイドラインの結び付け
4	担当症例と国試問題・ガイドラインの結び付け	8	担当症例と国試問題・ガイドラインの結び付け

講義方法
講義、演習、グループワーク、発表
成績評価方法
期末試験
参考書
理学療法ガイドライン
予習復習のアドバイス
骨関節障害の理学療法について、自分の勉強の課題をみつけ、授業の中で解決しましょう。

講義要項（シラバス）

年度	2022年度	時期	通年	学年	3
学科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	神経筋障害理学療法Ⅲ	講義曜日	変則	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	籠倉暁 和地辰紀	実務経験	和地：医療機関（一般病院）3年、介護老人保健施設4年、理学療法士として勤務 籠倉：医療機関（一般病院、整形外科病院）に理学療法士として9年勤務		
講義目標	一般目標				
	神経筋障害の理学療法ガイドラインと臨床実習の経験に基づいて、神経筋障害の理学療法について理解を深める。				
	到達目標				
	学生が、神経筋障害に対してガイドラインと臨床実習の経験に基づいて、理学療法を計画し、説明できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	担当症例と国試問題・ガイドラインの結び付け	5	担当症例と国試問題・ガイドラインの結び付け
2	担当症例と国試問題・ガイドラインの結び付け	6	担当症例と国試問題・ガイドラインの結び付け
3	担当症例と国試問題・ガイドラインの結び付け	7	担当症例と国試問題・ガイドラインの結び付け
4	担当症例と国試問題・ガイドラインの結び付け	8	担当症例と国試問題・ガイドラインの結び付け

講義方法
講義、演習、グループワーク、発表
成績評価方法
期末試験
参考書
理学療法ガイドライン
予習復習のアドバイス
神経筋障害の理学療法について、自分の勉強の課題をみつけ、授業の中で解決しましょう。

講義要項（シラバス）

年 度	2022年度	時 期	通年	学 年	3
学 科	理学療法科	講義時間	時間割参照		
科目名	脳血管障害理学療法Ⅲ	講義曜日	変則	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	籠倉暁 和地辰紀	実務経験	和地：医療機関（一般病院）3年、介護老人保健施設4年、理学療法士として勤務 籠倉：医療機関（一般病院、整形外科病院）に理学療法士として9年勤務		
講義目標	一般目標				
	脳血管障害の理学療法ガイドラインと臨床実習の経験に基づいて、脳血管障害の理学療法について理解を深める。				
	到達目標				
	学生が、脳血管障害に対してガイドラインと臨床実習の経験に基づいて、理学療法を計画し、説明できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	担当症例と国試問題・ガイドラインの結び付け	5	担当症例と国試問題・ガイドラインの結び付け
2	担当症例と国試問題・ガイドラインの結び付け	6	担当症例と国試問題・ガイドラインの結び付け
3	担当症例と国試問題・ガイドラインの結び付け	7	担当症例と国試問題・ガイドラインの結び付け
4	担当症例と国試問題・ガイドラインの結び付け	8	担当症例と国試問題・ガイドラインの結び付け

講義方法 講義、演習、グループワーク、発表
成績評価方法 期末試験
参考書 理学療法ガイドライン
予習復習のアドバイス 脳血管障害の理学療法について、自分の勉強の課題をみつけ、授業の中で解決しましょう。